

2020年3月30日

## EDU-Port ニッポン パイロット事業相手国関係者に対するアンケート調査結果報告

### 1. 本調査の背景と目的

文部科学省では、関係府省や国際協力機構（JICA）、日本貿易振興機構（JETRO）、地方公共機関、教育機関、民間企業、NPOなどが協力してオールジャパンで取り組む「日本型教育の海外展開推進事業（EDU-Port ニッポン）」を2016年度より5年間の計画で実施している。

活動のひとつであるパイロット事業では、日本型教育の海外展開のモデルとして掲げるのに適した事業についてプラットフォームを通じ集中的に支援し、併せて成果・課題を検証・共有することで日本型教育の海外展開の推進に資することを目的とし、2020年3月時点までに延52件のプロジェクトを支援した。

来年度、EDU-Port ニッポン最終年次を迎えるにあたって、これまで実施してきたパイロット事業の効果を検証するとともに、今後の日本型教育の海外展開の在り方を検討する際の参考とするため、プロジェクトを実施している相手国の関係者を対象にアンケート調査を実施した。本調査では、各国におけるパイロット事業の関係者が、プロジェクトを通じ、その考えや態度にどのような変化が生じたのかについて検証することを目的とした。

### 2. 調査実施方法

#### 2-1 調査票の作成

文部科学省およびEDU-Port ニッポン事務局が2019年5月に調査票を作成した。作成にあたっては、各プロジェクト活動に関する質問項目に加えて、本事業の成果目標である、①日本の教育の国際化、②将来の親日層の拡大、③日本の経済成長への還元の3項目に関連する質問も含めた。

和文で作成した調査票は、事務局にて英訳し、事務局受託機関である株式会社コーエイリサーチ&コンサルティングの英文校閲者により校閲を行った。その他、一部のパイロット事業者よりスペイン語の調査票の依頼があったため、事務局より翻訳を専門とする者に委託して翻訳した。

アンケート調査票の質問項目は、1. 回答者の基礎情報、2. プロジェクトを通じた変化や意見、3. 日本の教育および日本に対する印象・興味関心に関する内容にて構成されている。具体的な項目は、以下のとおり。

**表 1 アンケート調査 質問項目一覧**

1. 回答者の基礎情報	①性別 ②年齢 ③属性 ④EDU-Port プロジェクトとの関わり（一番近い回答を1つを選択） 1) プロジェクトの計画・運営に携わっている 2) 研修・講義の講師 3) プロジェクトの研修/イベント/セミナーに参加した
2. プロジェクトを通じた変化や意見	①プロジェクト活動はニーズに合っているか/合っていたか？ ②プロジェクト活動に参加して良かったか？ ③プロジェクトを通じた新しい発見や学びがあったか？ （「はい」と回答した人には、9つの選択肢を用意） ④プロジェクト活動を通して回答者本人に変化があったか？ （「はい」と回答した人には、5つの選択肢を用意） ⑤プロジェクト活動を通して研修受講者に変化があったか？ （1. 回答者の基礎情報④で1),2)に該当する回答者のみに質問） （「はい」と回答した人には、5つの選択肢を用意） ⑥プロジェクト活動を継続したいか？ ⑦プロジェクト活動を自分達で継続できるか？
3. 日本の教育・日本人に対する印象、日本に対する興味・関心 （観点） a.日本の教育の国際化 b.親日層の拡大 c.日本の経済成長への還元	①プロジェクト活動を通じての日本・日本人に対する印象(b) ②プロジェクト活動で回答者が感じた日本の教育の良い点(a) ③今後、日本人と一緒に教育分野の活動をしたいか？(a,b) ④具体的に協働できそうな教育プロジェクトのアイデア(a,b) ⑤今後、日本とどのような関わり方をもちたいか？(a,b,c) 選択肢(複数回答可): 就職(日本/自国の日系組織)、留学、視察、観光、プロジェクト参加等

## 2-2 対象者

パイロット事業を実施している相手国の関係者を本調査の対象者とした。具体的には、以下の条件での実施を依頼し、各パイロット事業者が以下の条件に合う関係者に調査票を配布した。

対象人数：1機関20人 対象者：EDU-Port ニッポンパイロット事業の相手国の関係者（次の①～③に該当する方） ①パイロット事業の計画・運営に携わっているカウンターパート ②研修・講義の講師 ③プロジェクトで実施した研修/イベント/セミナーの参加者 対象となる年齢：18歳以上 想定される職業：学生、教師、学校管理職・職員、政府関係者、民間企業スタッフ等
---

## 2-3 実施方法

パイロット事業に採択された全機関に対して、EDU-Port ニッポンパイロット事業の相手国関係者に対して別添のアンケート調査票を紙もしくはデータで配布・回収し、EDU-

Port ニッポン事務局が集計を行った。

#### 2-4 アンケート実施期間

2019年5月末に各パイロット事業者にも本アンケート調査票とともにアンケート調査を依頼し、2019年6月～12月の期間にアンケートを実施した。

#### 2-5 用語の定義

本報告書で使われる下記の用語については、以下の通り定義する。

単語	説明
パイロット事業	日本型教育の海外展開のモデルとして掲げるのに適した事業について、プラットフォームを通じ集中的に支援し、併せて成果・課題を検証、共有することで日本型教育の海外展開・推進に資することを目的とした事業のこと
プロジェクト	パイロット事業の一環として行っているプロジェクトのこと
活動	プロジェクト活動のこと

#### 2-6 回答数

対象となる延 52 機関のうち、28 機関の関係者全 623 人より回答を得た。2018 年度及び 2019 年度採択機関については、全 27 機関のうち、21 機関から回答を得た。2016 年度及び 2017 年度採択機関については、アンケート依頼時には、既に EDU-Port ニッポンプロジェクトが終了しており、アンケート調査票を関係者に配布・回収することが困難なため、当該パイロット事業者にも実施の可否を確認し、全 25 機関のうち、調査の実施が可能と返答があった 7 機関から回答を得た（表 2）。

1 機関あたり最大 20 人を対象としたが、ペルーでプロジェクトを実施した 1 機関から 251 人分の回答を得た。本調査の目的が、当パイロット事業が対象者となる参加者の考えや態度にどのような変化をもたらしたか、その効果について検証することを目的としており、事業ごとの成果の比較を行うものではないため、全ての回答を集計に加えることとした。なお、同機関からの回答のみの結果を別添 1 に付した。一部の項目にて、全体の集計結果にペルーのプロジェクトからの回答が大きな影響を与えた箇所については本文中に（注）を付した。

**表 2 アンケート調査を実施したパイロット事業実施機関数**

採択年度	2016 年度	2017 年度	2018 年度	2019 年度	合計
実施機関数/採択機関数 (公認プロジェクト)	2/5	0/2	9/12	2/2	13/21
実施機関数/採択機関数 (応援プロジェクト)	1/9	4/9	7/10	3/3	15/31
合計	3/14	4/11	16/22	5/5	28/52

### 3. 調査結果

#### 3-1 回答者の基礎情報

##### 3-1-1 地域別・採択年度別・公認/応援プロジェクト別回答者数

全体で、28 機関 623 人からの回答を得た内、地域別・採択年度別、公認/応援プロジェクト別回答者数は表 3 の通り。

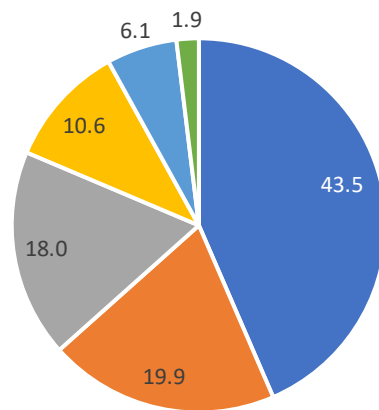
##### ①地域別の機関数・回答者数・割合

中南米地域が全体の 43.5%を占め、次いで ASEAN (19.9%)、その他アジア (18.0%)、アフリカ (10.6%)、大洋州 (1.9%) となっている。プロジェクトを複数国で実施している機関からの回答は、複数国 (6.1%) に分類した。なお、上述の通り、ペルーの方の回答数が多いため、中南米地域の全体に対する割合も高い。

**表 3 地域別機関数・人数・割合 (N=623)**

地域	機関数(機関)	回答者数(人)	回答者数の全体に対する割合(%)
中南米 (アルゼンチン、ペルー)	2	271	43.5
ASEAN (ベトナム、ラオス、ミャンマー、カンボジア、タイ)	15	124	19.9
その他アジア (スリランカ、インド、ネパール、ブータン、バングラデシュ)	5	112	18.0
アフリカ (エジプト、カメルーン、ウガンダ)	3	66	10.6
複数国 <sup>注1</sup>	2	38	6.1
大洋州 (パプアニューギニア)	1	12	1.9
合計	28	623	100.0

注 1: 具体的には「香港、ルーマニア、韓国」「インド・サウジアラビア」で活動を実施している。



- 中南米 (アルゼンチン、ペルー)
- ASEAN (ベトナム、ラオス、ミャンマー、カンボジア、タイ)
- その他アジア (スリランカ、インド、ネパール、ブータン、バングラデシュ)
- アフリカ (エジプト、カメルーン、ウガンダ)
- 複数国
- 大洋州 (パプアニューギニア)

図 1 地域別機関数・回答者数・割合 (N=623)

② 採択年度別の回答者数

2016 年度及び 2017 年度採択機関については、調査時にはプロジェクトの活動は終了していたが、103 人からの回答を得た。2018 年度採択機関については、1 機関より 251 人の回答が得られたため、他の年度と比べて回答者数が多くなっている。(表 4)

表 4 年度別回答者数 (N=623)

年度	2016 年度	2017 年度	2018 年度	2019 年度	合計
人数 (人)	16	87	466	54	623

③ 公認/応援プロジェクト別の回答者数

公認プロジェクト (個別枠、コンソーシアム枠の双方を含む) 事業に参加していた回答者は 401 人、応援プロジェクトに参加していた回答者は 222 人であった。(表 5)

表 5 公認/応援プロジェクト別の回答者数 (N=623)

公認/応援	公認	応援	合計
人数 (人)	401	222	623

### 3-1-2 性別

回答者の性別は、男性 52%、女性 44%でほぼ半数となった。(表 6、図 2)

表 6 回答者の性別の割合 (N=623)

	人数(人)	割合(%)
男	324	52.0
女	274	44.0
回答しない	2	0.3
未回答	23	3.7
合計	623	100.0

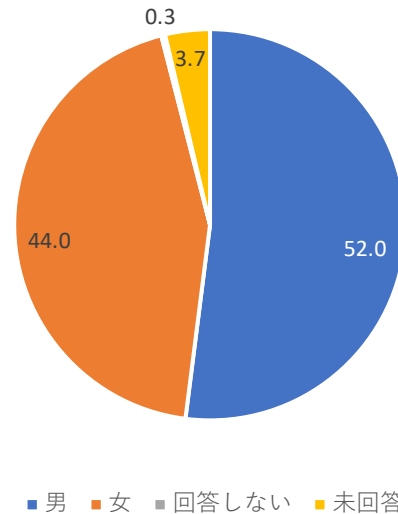


図 2 回答者の性別の割合 (N=623)

### 3-1-3 年齢

年齢別回答者数及び割合は表 7 及び図 3 の通りである。40代が最も多く (25.4%)、次いで 30代 (25.0%)、24歳以下 (20.7%) となった。

表 7 年齢別の回答者数及び割合 (N=623)

	人数(人)	割合(%)
18-24歳	129	20.7
25-29歳	91	14.6
30-39歳	156	25.0
40-49歳	158	25.4
50歳以上	71	11.4
未回答	16	2.6
無効回答	2	0.3
合計	623	100.0

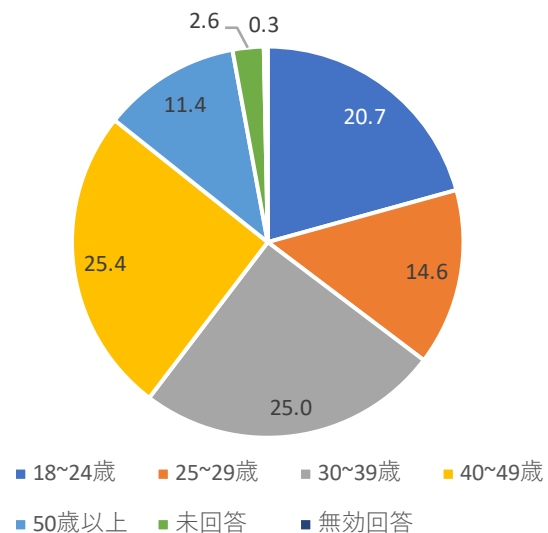


図 3 回答者の年齢別割合 (N=623)

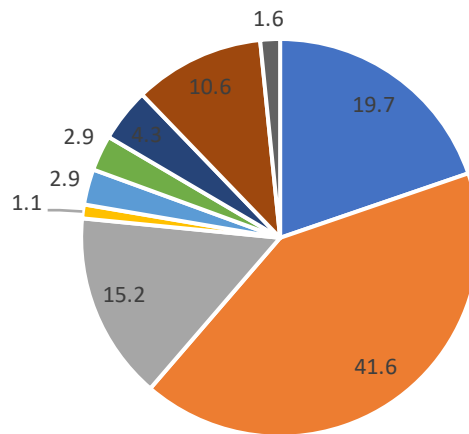
### 3-1-4 職業

回答者の職業別の人数及び割合は表 8 及び図 4 の通りである。教師（幼児・基礎教育）が 41.6%を占めている。次いで、学生（19.7%）、教師（高等教育）（15.2%）の順となっており、幼児・基礎教育・高等教育を合わせると教師の割合が 56.8%と半数以上を占めている。その他を選択した回答者の属性は、指導教員、コーディネーター、教師（幼児・基礎教育・高等教育以外）、NGO 職員、コンサルタント、調査員、実験助手、アドバイザー、演奏家、技術者、教科書執筆者、TV プロデューサー、グラフィックデザイナー等であった。

（注）なお、教師（幼児・基礎教育）については、259 人中ペルーのプロジェクトの回答者が 178 人を占めている。

**表 8 回答者の職業別人数及び割合（N=623）**

職業	人数(人)	割合(%)
教師（幼児・基礎教育）	259	41.6
学生	123	19.7
教師（高等教育）	95	15.2
民間企業	27	4.3
学校管理職・職員（高等教育）	18	2.9
政府関係者	18	2.9
学校管理職・職員（幼児・基礎教育）	7	1.1
その他	66	10.6
未回答	10	1.6
合計	623	100.0



- 学生
- 教師 (高等教育)
- 学校管理職・職員 (高等教育)
- 民間企業
- 未回答
- 教師 (幼児・基礎教育)
- 学校管理職・職員 (幼児・基礎教育)
- 政府関係者
- その他

図 4 回答者の職業別割合 (N=623)

### 3-1-5 プロジェクトとの関わり

選択肢および回答は表 9 及び図 5 のとおり。回答は 1 択式とした。プロジェクトとの関わりとしては、「研修/イベント/セミナーに参加した」と回答した人が最も多く、68.2%を占めた。

(注) なお、「研修/イベント/セミナーに参加した」と回答した 425 人中、ペルーのプロジェクトの回答者が 242 人を占めている。

表 9 プロジェクトとの関わり (N=623)

	人数(人)	割合 (%)
プロジェクトの研修/イベント/セミナーに参加した	425	68.2
研修・講義の講師	90	14.4
プロジェクトの計画・運営に携わっている	89	14.3
未回答	19	3.0
合計	623	100.0



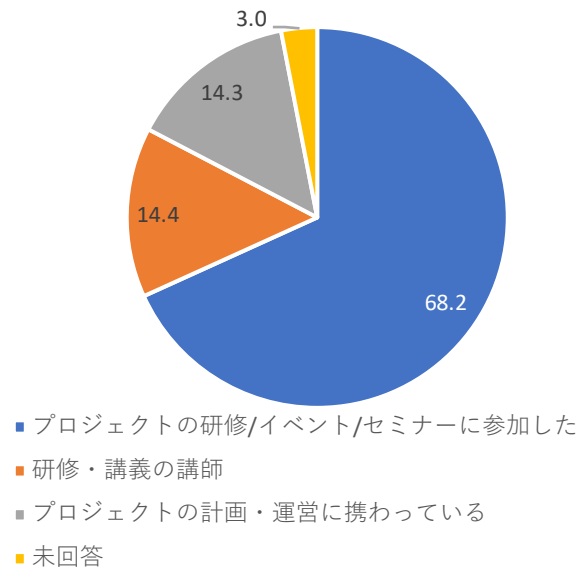


図 5 プロジェクトとの関わり (N=623)

### 3-2 プロジェクトを通じた変化や意見

#### 3-2-1 ニーズとの整合性

プロジェクト活動（以下、活動と示す）は回答者のニーズに合っていたか否かに対する回答は、「とても合っている/いた」、「合っている/いた」と回答した人が92.0%を占めた。（表10、図6）

表 10 活動はあなたのニーズに合っていますか？／合っていましたか？に対する回答  
(N=623)

	人数(人)	割合(%)
とても合っている/いた	345	55.4
合っている/いた	228	36.6
どちらでもない	28	4.5
やや合っていない/いなかった	14	2.2
合っていない/合っていないかった	1	0.2
未回答	7	1.1
合計	623	100.0

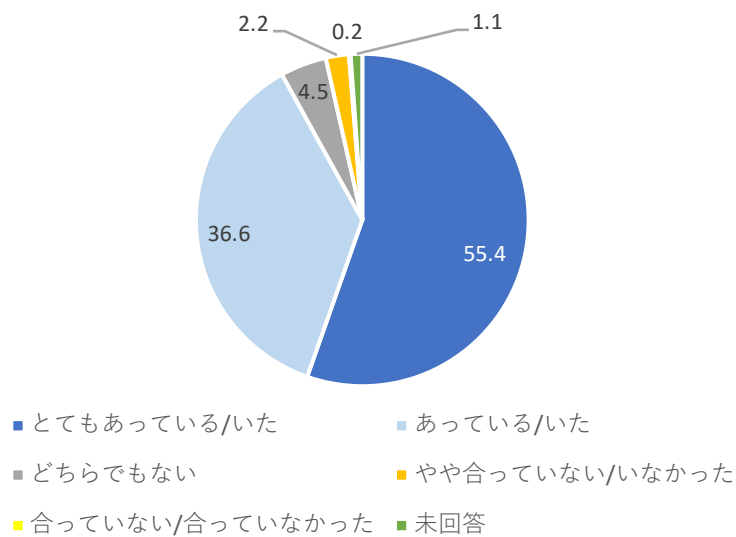


図 6 活動はあなたのニーズに合っていますか？／合っていましたか？  
に対する回答 (N=623)

### 3-2-2 プロジェクトへの満足度

活動に参加して良かったですか？に対する回答は、「とても良かった」、「良かった」と回答した人が95.6%を占めた。(表 11、図 7)

表 11 活動に参加して良かったですか？に対する回答 (N=623)

	人数(人)	割合(%)
とても良かった	392	62.9
良かった	204	32.7
どちらでもない	16	2.6
あまり良くない	7	1.1
良くない	0	0.0
未回答	4	0.6
合計	623	100.0

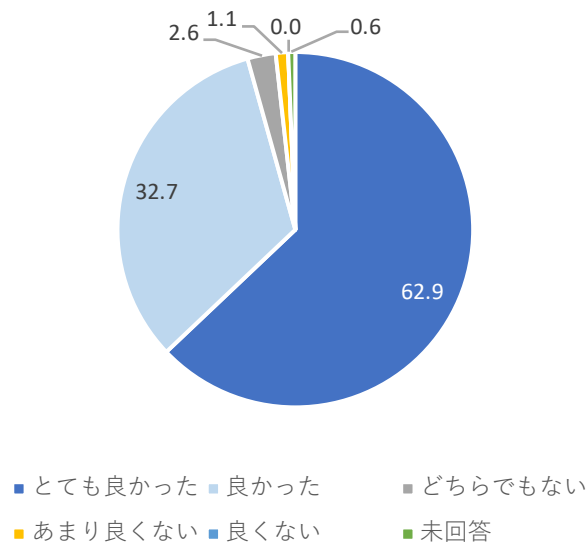


図 7 活動に参加して良かったですか？に対する回答 (N=623)

### 3-2-3 活動を通じた新しい発見や学び

#### (1) 活動を通じた発見や学びの有無

活動を通じて何か新しい発見や学びがあったか、に対する回答としては、96.1%の人が「(発見や学びが)あった」と回答した。(表 12、図 8)

表 12 何か新しい発見や学びがありましたか？に対する回答 (N=623)

	人数(人)	割合(%)
はい	599	96.1
いいえ	14	2.2
未回答	10	1.6
合計	623	100.0

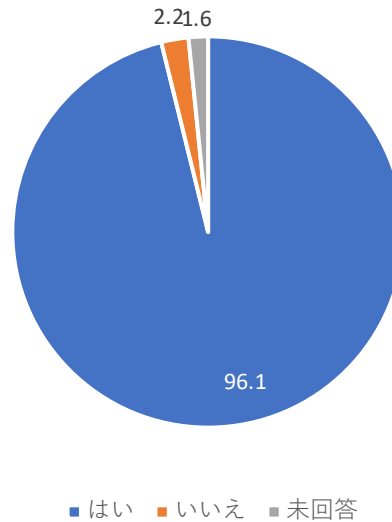


図 8 何か新しい発見や学びがありましたか？に対する回答 (N=623)

#### (2) 発見や学びの具体的内容

「(発見や学びが)あった」と答えた人に対して、どのような発見や学びがあったか(複数回答可)を尋ねたところ、最も多い回答として「教授方法」(442人)、次いで「専門分野の知識」(376人)、「自分の専門分野以外の知識」(171人)との回答を得た。その他の回答として、「学習のための規律があること」、「情熱は成功につながること」、「(授業)観察」、「教室内での体育」、「学習到達のための記録」等が挙げられた。(表 13、図 9)

表 13 どんな発見や学びがありましたか？に対する回答(複数回答可)(N=599)

	人数(人)
教授方法	442
専門分野の知識	376
自分の専門分野以外の知識	171
教育評価方法	169
自分の所属組織以外の機関とのネットワーキング	166
日本の習慣・文化・価値観	157
日本語	52
日本のビジネスマナー	49
その他	8
合計	1,590

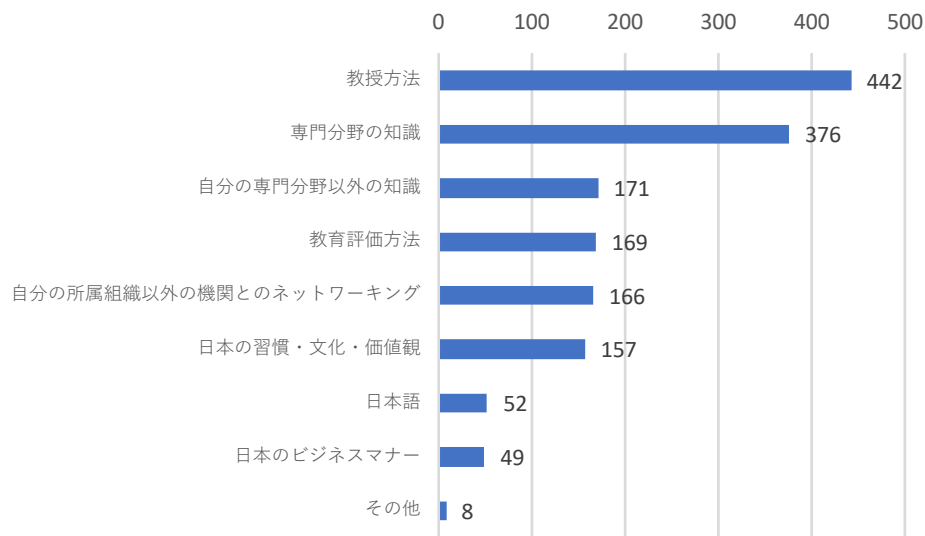


図 9 どんな発見や学びがありましたか？に対する回答（複数回答可）（N=599）

### 3-2-4 活動を通じた回答者自身の変化

#### (1) 活動を通じた回答者自身の変化の有無

活動を通してあなたに変化がありましたか？に対する回答については、93.1%の人が「(変化が)あった」と回答した。(表 14、図 10)

表 14 活動を通してあなたに変化がありましたか？に対する回答（N=623）

	人数(人)	割合(%)
はい	580	93.1
いいえ	25	4.0
未回答	18	2.9
合計	623	100.0

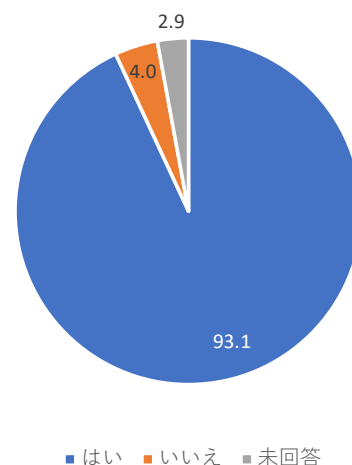


図 10 活動を通してあなたに変化がありましたか？に対する回答（N=623）

#### (2) 活動を通じた回答者自身の変化の内容

活動を通じて回答者自身に変化があったと答えた人に対し、どのような変化があったか（複数回答可）を尋ねたところ、「自分の仕事/勉強/活動への関心が高まった」（463人）と回答した人が最も多く、次いで「日本や自分の国以外のことに関心を持つようになった」（313人）、「自分の仕事/勉強/活動に積極的に参加するようになった」（250人）との回答が多かった。「上記以外で変化が見られた」と回答した者からは下記のような回答が得られた。

(表 15、図 11)

- 小学生へ新たな教授法を導入することができた。
- 授業のビデオを使ってグループ指導をした。
- これまで伝統的な教授法しか知らなかったが、活動を通して新しい方法を知った。

(注) なお、「日本や自分の国以外のことに関心を持つようになった」と回答した 313 人中、ペルーのプロジェクトの回答者が 168 人を占め、「自分の仕事/勉強/活動に積極的に参加するようになった」と回答した 250 人中、ペルーのプロジェクトの回答者が 37 人を占めた。ペルーのプロジェクトの回答を除くと、「自分の仕事/勉強/活動に積極的に参加するようになった」が「自分の仕事/勉強/活動への関心が高まった」に次いで 2 位になる。

表 15 活動を通してどんな変化がありましたか？に対する回答（複数回答可）(N=580)

	人数(人)
自分の仕事/勉強/活動への関心が高まった。	463
日本や自分の国以外のことに関心を持つようになった。	313
自分の仕事/勉強/活動に積極的に参加するようになった。	250
成績が上がった。能力が向上した。	120
上記以外で、変化が見られた。	18
合計	1,164

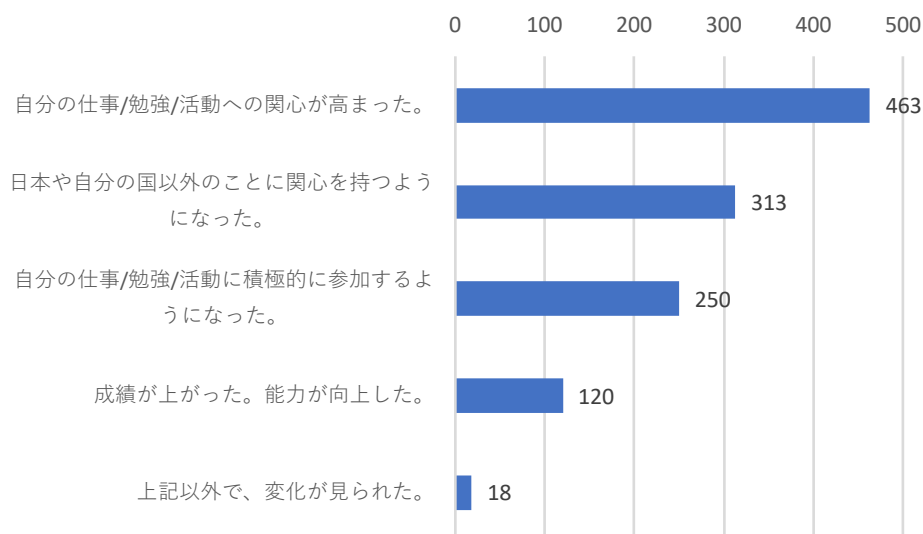


図 11 活動を通してどんな変化がありましたか？に対する回答 (N=580)

### 3-2-5 活動を通じた研修受講者の変化

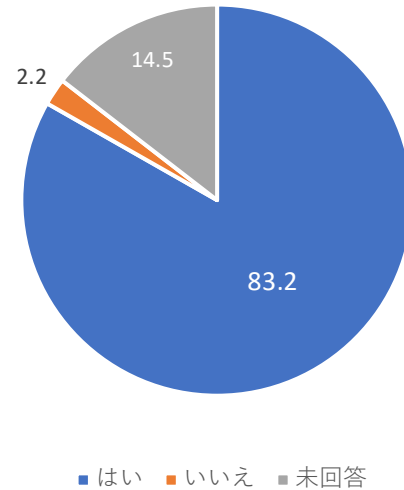
#### (1) 活動を通じた研修受講者の変化の有無

回答者の基礎情報でのプロジェクトとの関わり (3-1-5) に対する回答のうち、「研修・講義の講師」(90 人) 及び「計画・運営に携わっている」(89 人) と回答した人に対し、「活動を通して研修受講者・参加者に変化がありましたか？」と尋ねたところ、83.2%の人が「(変

化が) あった」と回答した。(表 16、図 12)

**表 16 活動を通して研修受講者  
に変化がありましたか?に対する回答 (N=179)**

	人数(人)	割合(%)
はい	149	83.2
いいえ	4	2.2
未回答	26	14.5
合計	179	100.0



**図 12 活動を通して研修受講者に変化がありましたか?に対する回答 (N=179)**

(2) 研修受講者の変化の具体的な内容

活動を通じた研修等参加者に変化が「あった」と答えた人に対し、どのような変化があったか(複数回答可)を尋ねたところ、「研修受講者の仕事/勉強/活動への関心が高まった。」(112人)との回答が一番多く、次いで「成績が上がった。能力が向上した。」(95人)「研修受講者が仕事/勉強/活動に積極的に参加するようになった。」、(43人)という回答が多かった。(表 17、図 13)

**表 17 活動を通して研修受講者にどんな変化がありましたか?に対する回答(複数回答可)  
(N=149)**

	人数(人)
研修受講者の仕事/勉強/活動への関心が高まった。	112
成績が上がった。能力が向上した。	95
研修受講者が仕事/勉強/活動に積極的に参加するようになった。	43
日本や自分の国以外のことに関心を持つようになった。	39
上記以外で、変化が見られた。	0

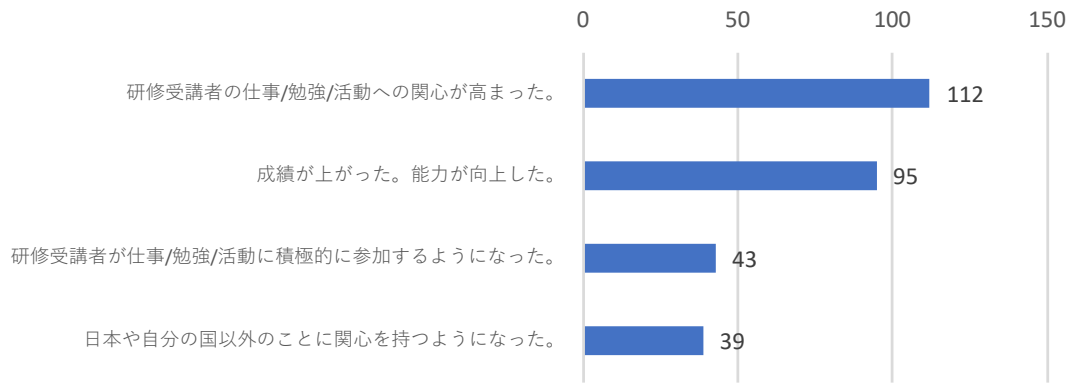


図 13 活動を通して研修受講者にどんな変化がありましたか？  
に対する回答（複数回答可）（N=149）

### 3-2-6 プロジェクトの継続性

#### (1) プロジェクトの継続についての意思

回答者の基礎情報でのプロジェクトとの関わり（3-1-5）に対する回答のうち、「研修・講義の講師」及び「計画・運営に携わっている」と回答した人に対し、活動を継続していきたくを尋ねた結果、「全くそう思う」、「そう思う」と回答した人が全体の 89.4%を占めた。

（表 18、図 14）

表 18 活動を継続していきたくですか？に対する回答（N=179）

	人数(人)	割合(%)
全くそう思う	92	51.4
そう思う	68	38.0
どちらでもない	4	2.2
そう思わない	1	0.6
全くそう思わない	1	0.6
未回答	13	7.3
合計	179	100.0

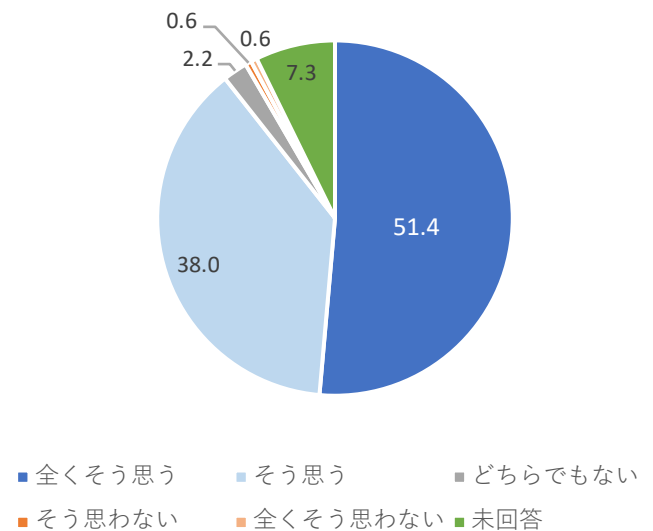


図 14 活動を継続していきたくですか？  
に対する回答（N=179）



(2) プロジェクトの継続について

回答者の基礎情報でのプロジェクトとの関わり (3-1-5) に対する回答のうち、「研修・講義の講師」及び「計画・運営に携わっている」と回答した人に対し、「活動を自分たちで継続できますか?」と尋ねたところ、「全て継続できる」、「一部継続できる」と回答した人が、88.2%を占めた。(表 19、図 15)

表 19 活動を自分たちで継続できますか?に対する回答 (N=179)

	人数(人)	割合(%)
全て継続できる	55	30.7
一部継続できる	103	57.5
できない	6	3.4
わからない	1	0.6
未回答	14	7.8
合計	179	100.0

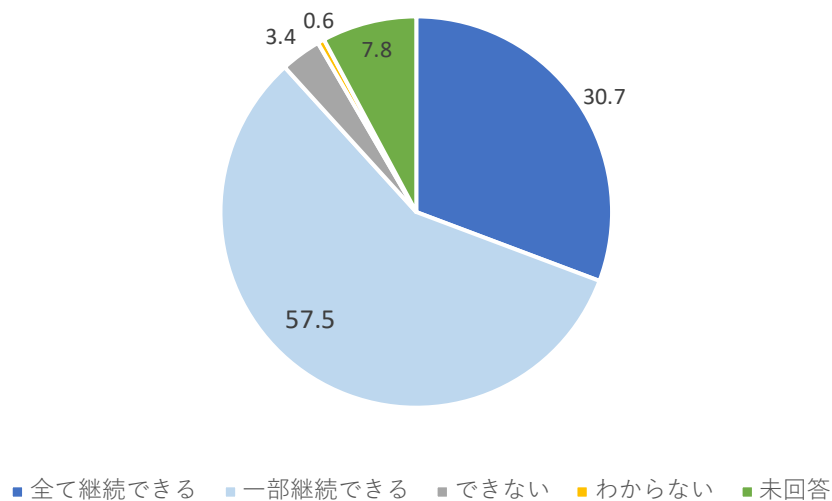


図 15 活動を自分たちで継続できますか?に対する回答 (N=179)

### 3-3 日本の教育および日本に対する印象・興味関心

#### 3-3-1 日本・日本人に対する印象

活動を通して日本・日本人に対しての印象は良くなったかとの質問に対し、95.8%の人が「はい」と回答した。(表 20、図 16)

表 20 活動を通して日本・日本人に対しての印象は良くなりましたか？に対する回答 (N=623)

	人数(人)	割合(%)
はい	597	95.8
いいえ	10	1.6
未回答	16	2.6
合計	623	100.0

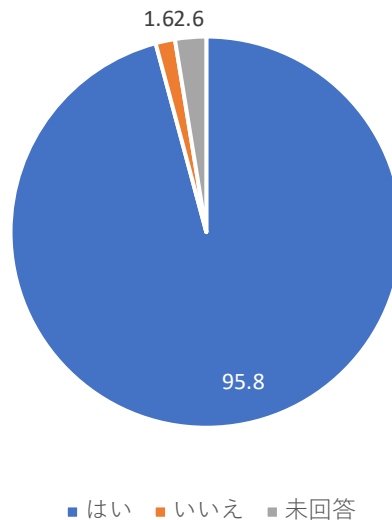


図 16 活動を通して日本・日本人に対しての印象は良くなりましたか？に対する回答 (N=623)

「はい」と答えた人に対して、「日本・日本人の印象」(複数回答可)について尋ねたところ、多い順に、「時間を守る」(397人)、「仕事のやり方が効率的」(392人)、「優しい」(384人)、「個々人を大切にする」(375人)、「時間の管理がうまい」(371人)等の回答が得られた。上位第11番目までの「人間関係を大切にする」「創造的」「礼儀正しい」「責任感がある」「仕事が丁寧」「信頼できる」の回答者数は、回答者全体の過半数である312人を上回っている。また、「その他」を選択した者の回答は以下の通りである。(表 21、図 17)

- 仕事に対して真剣
- いつでも進んでアイデアを共有する準備ができています。
- 規律正しく仕事に対してまじめな人々である。

- 明るい
- 私たちの文化や教育は日本とは大きく異なっている。
- スマホなどの機器に依存しており交流が少ない。
- 大学レベルでの女性教員の割合が低い。
- 学校ではかなりしつけが行き届いており、評価できるが、（この分野の専門家ではないので自信はないが）子どもが人間らしさを失い機械化するのではないかとの懸念を持った。

（注）なお、「時間を守る」と回答した 397 人中、ペルーのプロジェクトの回答者が 204 人を占め、「仕事のやり方が効率的」と回答した 392 人中、ペルーのプロジェクトの回答者が 182 人を占めた。ペルーの回答者を除いた場合は、「仕事が丁寧」の回答者が最も多く（250 人）、次いで「礼儀正しい」（246 人）、「仕事のやり方が効率的」（210 人）となる。

**表 21 日本・日本人の印象（複数回答可）(N=623)**

	人数(人)
時間を守る	397
仕事のやり方が効率的	392
優しい	384
個々人を大切にする	375
時間の管理がうまい	371
人間関係を大切にする	364
創造的	362
礼儀正しい	350
責任感がある	338
仕事が丁寧	316
信頼できる	313
新しいことに挑戦的	302
日本独自の文化や作法	259
緻密／きめ細かい	230
きれい好き	210
人材の指導や育成に長けている	196
明るい	189
誰でも平等に扱ってくれる	142
アニメ・ファッションなどがある	84
節約上手	73
その他	18
合計	5,665

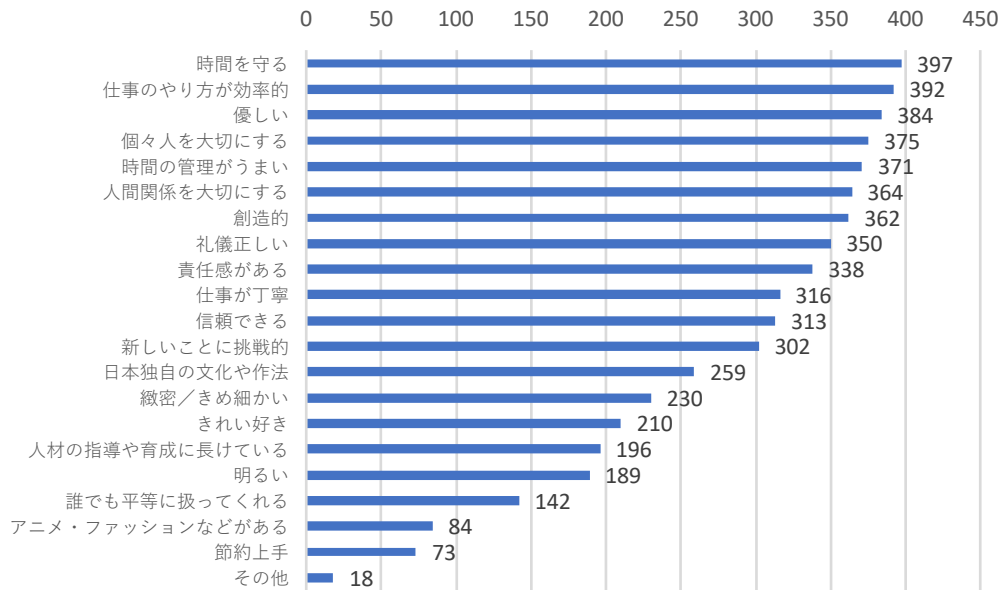


図 17 日本・日本人の印象（複数回答可）(N=623)

### 3-3-2 日本の教育の良い点

活動を通じて回答者が感じた日本の教育の良い点（複数回答可）について尋ねたところ、多い順に、「学びに向かう力が育まれる」（367人）、「主体的な学び」（359人）、「問題解決の能力が身につく」（347人）、「基礎学力・技術を身に付けることができる」（341人）、「教師間の連携が取れた教育」（315人）等の回答が得られた。また、その他を選択した者の回答は以下の通りである。（表 22、図 18）

- スピード且つ正確さ
- 興味深い教授法
- 子どもにやさしい楽しい学習
- リーダーシップ
- 数学の素養がよい
- 幼い子供への知識の伝達方法
- よい作法で教えられている
- 良いが私たちの国にはあてはまらない
- アイデアを共有することができている
- 学習者間でのグループワークを使う（ピアティーチング）
- たくさんの戦略を与えてくれた

（注）なお、「学びに向かう力が育まれる」と回答した 367 人中、ペルーのプロジェクトの回答者が 144 人を占め、「主体的な学び」と回答した 359 人中、ペルーのプロジェクト

の回答者が 143 人を占めた。なお、ペルーの回答者を除いた場合は、全体では 5 位である「教師間の連携が取れた教育」は 133 人となり、順位は 13 位となる。

**表 22 日本の教育の良い点（複数回答可）(N=623)**

	人数(人)
学びに向かう力が育まれる	367
主体的な学び	359
問題解決の能力が身につく	347
基礎学力・技術を身につけることができる	341
教師間の連携が取れた教育	315
グループ活動が多い	314
自律性が育まれる	312
判断力が育まれる	311
創造力が養われる	287
時間を守る意識が身につく	286
健康な身体づくり	281
高度な学力・技術を身につけることができる	279
対話的に学ぶ	266
多様な指導法がある	265
教材・副教材が豊富	255
教材・副教材の内容が充実している	253
地域と連携した教育	249
知識や人間性、心身の健康のバランスの取れた教育	240
思いやり・協調性が育まれる	236
Child-Centered の教育	187
課外活動/特別活動（掃除、給食、放課後活動）が豊富	134
教育における ICT 活用が進んでいる	115
その他	11
特にない	9
合計	6,019

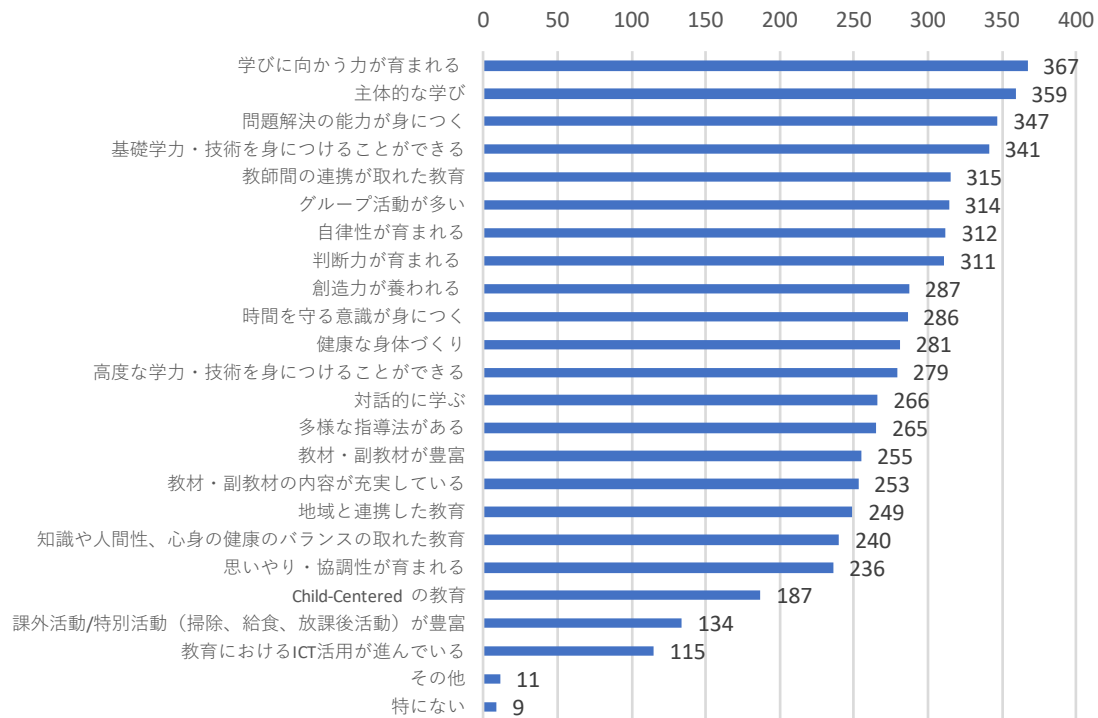


図 18 日本の教育の良い点（複数回答可）（N=623）

### 3-3-3 日本人と一緒にやりたい教育分野の活動

#### (1) 今後に日本人と一緒に教育分野の活動を行う意思

今後、日本人と一緒に教育分野の活動をしたいですか？に対する回答としては、「全くそう思う」、「そう思う」と回答した人が 89.2%を占めた。（表 23、図 19）

表 23 日本人と一緒に教育分野の活動をしたいですか？に対する回答（N=623）

	人数(人)	割合(%)
全くそう思う	404	64.8
そう思う	152	24.4
どちらでもない	17	2.7
そう思わない	2	0.3
全くそう思わない	1	0.2
未回答	47	7.5
合計	623	100.0

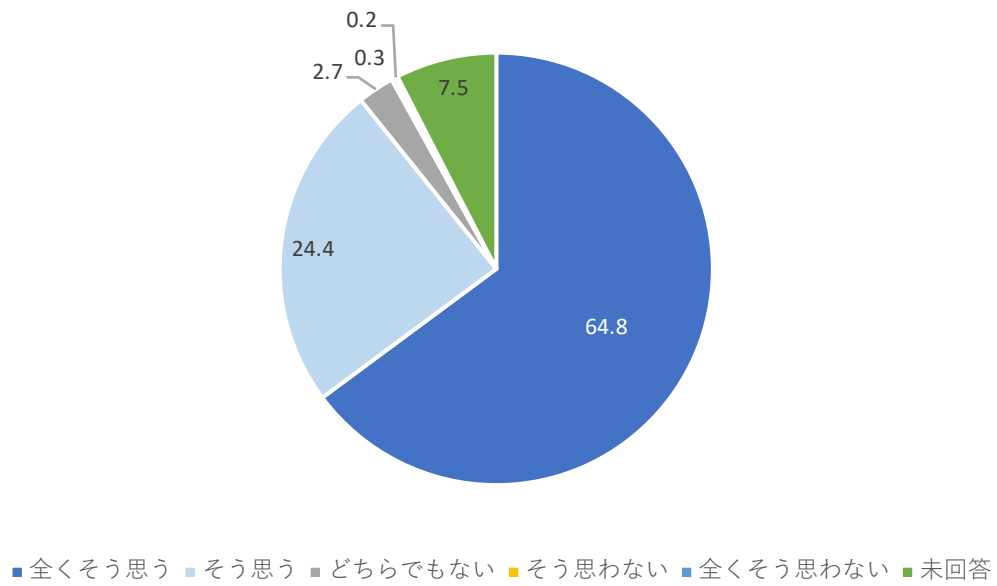


図 19 日本人と一緒に教育分野の活動をしたいですか？に対する回答 (N=623)

(2) 日本人と一緒にやりたい教育プロジェクトのアイデア

もし、(日本人と) 具体的に協働できそうな教育プロジェクトのアイデアがあれば書いてください、と尋ねたところ、下記のアイデアが出された。

- 体育：体育教育の経験の交流。健康な生活のための簡単な運動ゲーム。スポーツの教授法。
- ICT：ICTの授業準備・授業実践。小学校でのICT教材の開発。授業に参加できない児童生徒に対するオンライン授業。遠隔教育。
- 環境：適切なゴミ処理プロジェクト、森林伐採からの自然保護に対する支援。ソーラーパワー。
- 健康：健康的な食べ物。エコヘルス教育。
- 音楽：新しいリズムや新しい音楽（ジャズ、ロック、ブルーススタイル）を授業で取り入れる。自国の音楽の開発。
- 評価：習熟度評価。形成的評価。
- 人材開発：人材開発と技術教育。リーダーシップ。
- 調査・研究：クラス調査の実施。
- ロボット工学：ロボット工学の学校を自国に開くための必要な知識（ロボット工学、プログラミング、ハードウェアについて等）。
- 算数・数学：数学の問題の開発。初等教育学校の教員に算数の教授法に関する研修。
- 理科：理科の教授法。
- 高等教育：教育学を専攻する学生の養成。
- 価値・倫理：価値観と倫理原則に基づいた教育。
- 安全教育：災害からの安全教育。
- ノンフォーマル教育：成人の識字。
- カリキュラム・教科書：カリキュラムや教科書の基準。
- 日本文化：伝統文化（お茶、お花）などの体験的学習。
- 日本語：日本語教育。
- 課外活動：学習サークル。
- その他：交換留学。グループワーク。テスト（試験）の実施。基礎能力の強化。

3-3-4 今後の日本との関わり方

今後、日本とどのように関わりたいかについて複数回答可で尋ねたところ、回答としては、「自分の国で実施される日本のプロジェクトに参加したい」（433人）が多く、続いて、「日本の視察」（292人）、「日本への留学」（213人）に関心が寄せられた。その他を選択した者の回答は以下の通りである。（表24、図20）

- 日本のことを学び続けたい
- 日本で高等教育を受けたい
- 新しい教育方法や日本の教育戦略を更新する必要がある



- 教育システムを学びたい
- 文化交流を通じてお互いを知りたい
- 国際開発やビジネスの分野について、日本で更に学びたい
- 日本の初等教育について更に学び、自国の学校に取り入れたい
- リコーダーのプログラムを続ける
- 学校での評価の改善
- e-ラーニング
- 学校評価や国家試験の分野での協働
- スポーツ用具の支援を受けたい
- 自国で更に多くの会議ができればよい
- 日本で修士課程に行きたい
- 教育的投入や資源がほしい
- 交流したい

表 24 今後、日本とどのような関わり方を持ちたいですか？に対する回答（複数回答可）  
(N=623)

	人数(人)
自分の国で実施される日本のプロジェクトに参加したい	433
日本を視察したい	292
日本に留学したい	213
日本を観光したい	127
日本で働きたい	120
自分の国の日系企業／組織で働きたい	120
その他	21
特にない	12
合計	1,338

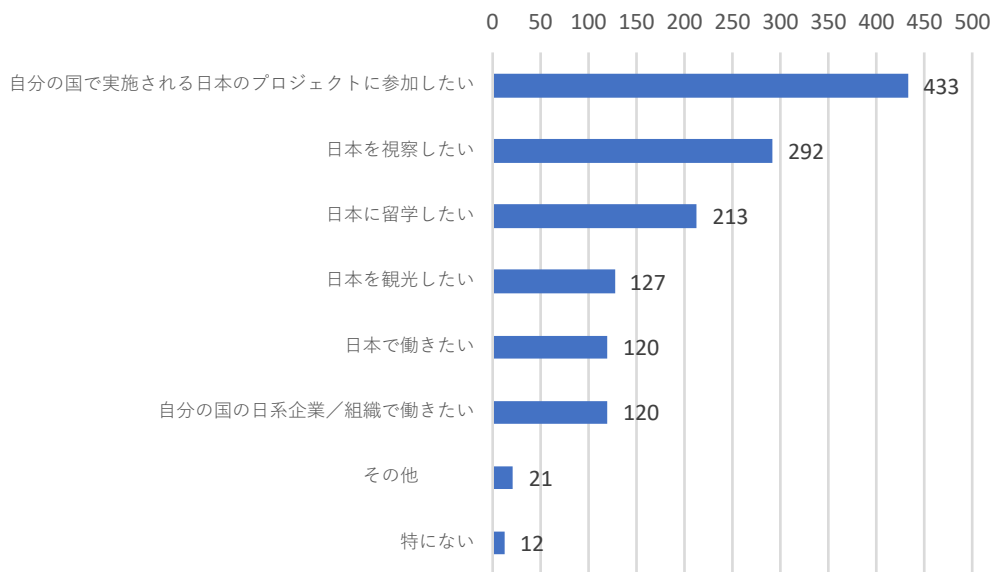


図 20 今後、日本とどのような関わり方を持ちたいですか？に対する回答  
(複数回答可) (N=623)

#### 4. 結果のまとめ

本調査結果について、1. EDU-Port ニッポンの成果目標への貢献、2. パイロット事業実施国における課題改善への貢献、3. 今後の日本型教育の海外展開のあり方の3つの観点から整理する。

##### 1. EDU-Port ニッポンの成果目標への貢献

EDU-Port ニッポンにおける3つの成果目標：①日本の教育の国際化、②親日層の拡大、③日本の経済成長への還元について、本節では各成果目標に対するパイロット事業の貢献度について、結果を踏まえて整理する。

##### ① 日本の教育の国際化

パイロット事業実施国の関係者によると、「プロジェクトを通じて感じた日本の教育の良い点（本報告書項目3-3-2）」として、「学びに向かう力が育まれる」（全623人中367人）、「主体的な学び」（同359人）、「問題解決の能力が身につく」（同347人）が上位3位までに挙げられている。日本の教育は、子どもの学ぶ意欲を育める点、主体的に学べる点や、問題解決能力が身につく教育に良さがあるとして、諸外国においても受け入れられ、通用し得るものとなっていた。「教師間の連携が取れた教育」（同315人）を日本の教育の良い点として挙げた人も過半数を超えており、自国と比較し、教育現場で教師間の連携が評価されていることも読み取れる。

さらに、「今後、日本とどのような関わり方を持ちたいか（同上3-3-4）」という問いに対し、「日本を視察したい」（全623人中292人）、「日本に留学したい」（同213人）、という数多くの意見が寄せられた。

このように、パイロット事業を通じて、日本の教育手法の背景となる考え方や教育文化を発信することができたという点、および将来の日本への留学に対する関心が高まったという点において、日本の教育の国際化に貢献したと言える。

## ② 親日層の拡大

95.8%の回答者から、活動を通じて日本・日本人に対しての印象（同3-3-1）が「良くなった」との回答を得た。パイロット事業が「親日層の拡大」という観点において、多大な貢献を果たしていると言える。具体的な良い印象として挙げられた「時間を守る」「仕事のやり方が効率的」「優しい」「個々人を大切にする」「時間の管理がうまい」「人間関係を大切にする」「創造的」「礼儀正しい」「責任感がある」「仕事が丁寧」「信頼できる」などの特徴は、各パイロット事業実施機関による真摯な取組の成果だと言える。

また、今後、日本人と一緒に教育分野の活動を行いたいと回答した人が89.2%に上ることに加え（同3-3-3）、今後の日本との関わり方についての質問（同3-3-4）では、日本への視察、留学に関心がある人が623人中200人以上におよび、観光、就職（自国の日系組織も含む）に関心がある人も100人以上いることから、回答があった相手国関係者の日本に対する関心の高さが窺える。

## ③ 日本経済成長への還元

「今後、日本とどのような関わり方を持ちたいか（同3-3-4）」という問いに対して、「日本を観光したい」（全623人中127人）、「日本で働きたい」（同120人）、「自分の国の日系企業/組織で働きたい」（同120人）、「日本を視察したい」（同292人）、「日本に留学したい」（同213人）、「自分の国で実施される日本のプロジェクトに参加したい」（同433人）という数多くの意見が寄せられたことから、日本に興味を持ち、視察や留学で来日したり、日系企業で働いたりする人が増える可能性が示唆された。

こうした、来日する人や日系企業で働く人が増えること、日本型教育の海外展開の方法として、現地でニーズに合致した当パイロット事業のようなプロジェクトを引き続き実施することは、日本の経済成長への還元の一助となるであろう。

## 2. パイロット事業実施国における課題改善への貢献

本調査では、世界各国で、さまざまな目標を設定した各プロジェクトに対して、同一の調査票を用い、全プロジェクトに共通するであろう質問項目を設けたことから、パイロット事業の詳細な効果を測定することは困難である。そのため、得られた結果の範囲で、①妥当性、②有効性、③持続性の観点において、パイロット事業実施国における課題改善への貢献度を検証する。

### ① 妥当性

アンケート対象者に対し、「活動はあなたのニーズに合っているか/合っていたか」と質問

したところ、92%もの人が、「合っている/いた」と回答した(3-2-1)。このことから、全体として各プロジェクトの活動は、ターゲットグループのニーズに合致していたという必要性の観点において、総じて妥当であったと言える。

## ② 有効性

パイロット事業の有効性については、各プロジェクトの目標が異なることから、目標に対しての達成度ではなく、プロジェクトに参加した関係者自身が感じた満足度や、プロジェクトを通じた変化等を有効性の判断材料とする。

「活動に参加して良かったか」との質問に対し、95.6%の人が良かったと回答しており、(3-2-2) 新しい発見や学びがあった人の割合も 96.1%に上る(3-2-3)。具体的には、活動に参加したことにより、「教授方法」(全 623 人中 442 人)や「専門分野の知識」(同 376 人)について新たな発見や学びがあったと答えた人が多かった。また、上述の通り、活動を通じて回答者自身にポジティブな変化が見られた人は 93.1%であり(3-2-4)、講師を含め計画や運営に携わっている人の 83.2%が、研修/イベント/セミナー受講者にポジティブな変化が見られたと回答している(3-2-5)。

更に、「活動を継続していきたいか」の質問に対しては、89.4%の人が継続の意思を示しており、プロジェクト参加への高い満足度やポジティブな変化のみならず、今後も活動を継続していきたいとの意欲も見てとることができ、総じてパイロット事業の有効性は高いと言える。

## ③ 持続性

プロジェクトの持続性については、EDU-Port の支援終了後も、プロジェクト実施による効果が継続されるかを、あらゆる側面から検証することが望ましいが、本調査では、アンケートの回答者自身が活動を継続していく意思があるか、また、自分たちでそれを継続していかけるかを持続性の判断基準とする。

活動の継続の意思については、上述の通り、89.4%の人がその意思を示しており、自分たちで全部もしくは一部の活動を継続できると考えている回答者は 88.2%に上る。このことから、回答者の意思としては、一定程度パイロット事業の持続性はあると言える。一方で、「自分たちで全部の活動を継続することができる」と回答した人は全体の 30.7%に留まった。

## 3. 今後の日本型教育の海外展開のあり方

本調査は、EDU-Port ニッポンのパイロット事業の効果を検証し、今後の日本型教育の海外展開のあり方を検討する際の一助となることを目的とした。調査結果は、全体として本事業に対して好意的な回答を得ており、2016 年度から 2019 年度に EDU-Port ニッポンの採択を得た機関による日本型教育のパイロット事業については、全体として相手国関係者にとって有意義なものであったと捉えられていたことがわかった。

具体的な海外展開における日本型教育の内容については、日本の教育の良い点として回

答者が挙げた内容を考慮することができる。例えば、多くの回答が得られた「学びに向かう力が育まれる」「主体的な学び」「問題解決能力、基礎学力・技術を身につけることができる」「教師間の連携が取れている」「グループ活動が多い」「自律性・判断力が育まれる」などの要素をプロジェクトに取り入れることにより、相手国の方々に喜ばれるだけでなく、日本型教育の魅力をより多くの方々に伝えることができると考えられる。

また、回答者の 89.2%が今後も日本人と一緒に教育分野の活動をしたいと考えており、具体的なアイデアとして、教科では「体育」「音楽」「算数・数学」「理科」や、「ICT教材の開発」や「ICTを使ったオンライン授業」、「ロボット工学」等、先端技術を活用した教育にも関心が示された。その他、「環境保全（適切なゴミ処理、森林伐採からの自然保護）」、「教授法」、「評価の方法」、「日本文化の体験」等にもニーズがあることが分かった。

パイロット事業は、相手国の課題解決に貢献するのみならず、日本の教育手法や教育文化の発信ひいては国際プレゼンスの向上に寄与できることが示唆された。また、日本人と協働することによって、日本・日本人に対する印象についても肯定的に捉えられており、具体的な協業のアイデアなども共有されたことから、今後のプロジェクト実施におけるヒントを得ることができた。一方、本調査では、相手国関係者のみを対象としており、日本側の事業実施機関の情報収集は行っていない。そのため、パイロット事業実施国からの視点に加え、日本側関係者からの視点で本事業を検証することも有用であろう。

以上

別添：

1. ペルーにおけるパイロット事業関係者に対するアンケート調査結果
2. EDU-Port ニッポンパイロット事業についてのアンケート調査票

参考・引用文献

パイロット事業一覧（2018年3月版、2019年3月版、2020年3月版）

<https://www.eduport.mext.go.jp/summary/pamphlet.html> Accessed on March 30, 2020

2020年3月30日

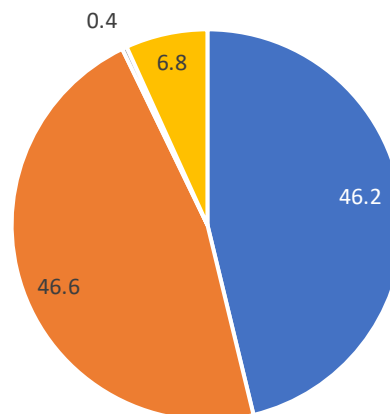
**EDU-Port ニッポン**  
**ペルーにおけるパイロット事業関係者に対するアンケート調査結果**

**1 回答者の基礎情報**

1-1 性別 (表 1、図 1)

**表 1 回答者の性別の割合 (N=251)**

	人数(人)	割合 (%)
男	116	46.2
女	117	46.6
回答しない	1	0.4
未回答	17	6.8
合計	251	100.0



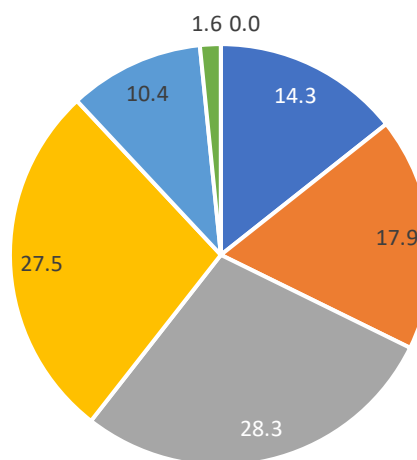
■ 男 ■ 女 ■ 回答しない ■ 未回答

**図 1 回答者の性別の割合 (N=251)**

1-2 年齢 (表 2、図 2)

**表 2 年齢別の回答者数及び割合 (N=251)**

	人数(人)	割合 (%)
18-24 歳	36	14.3
25-29 歳	45	17.9
30-39 歳	71	28.3
40-49 歳	69	27.5
50 歳以上	26	10.4
未回答	4	1.6
無効回答	0	0.0
合計	251	100.0



■ 18~24歳 ■ 25~29歳 ■ 30~39歳 ■ 40~49歳  
■ 50歳以上 ■ 未回答 ■ 無効回答

**図 2 回答者の年齢別割合 (N=251)**

### 1-3 職業

回答者の職業別の人数及び割合（表 3 及び図 3）。その他を選択した回答者の属性は、体育の教員及び教育省国家カリキュラム担当官ということであった。

表 3 回答者の職業別人数及び割合（N=251）

	人数(人)	割合(%)
教師（幼児・基礎教育）	178	70.9
学生	38	15.1
教師（高等教育）	16	6.4
学校管理職・職員（幼児・基礎教育）	1	0.4
政府関係者	1	0.4
学校管理職・職員（高等教育）	0	-
民間企業	0	-
その他	15	6.0
未回答	2	0.8
合計	251	100.0

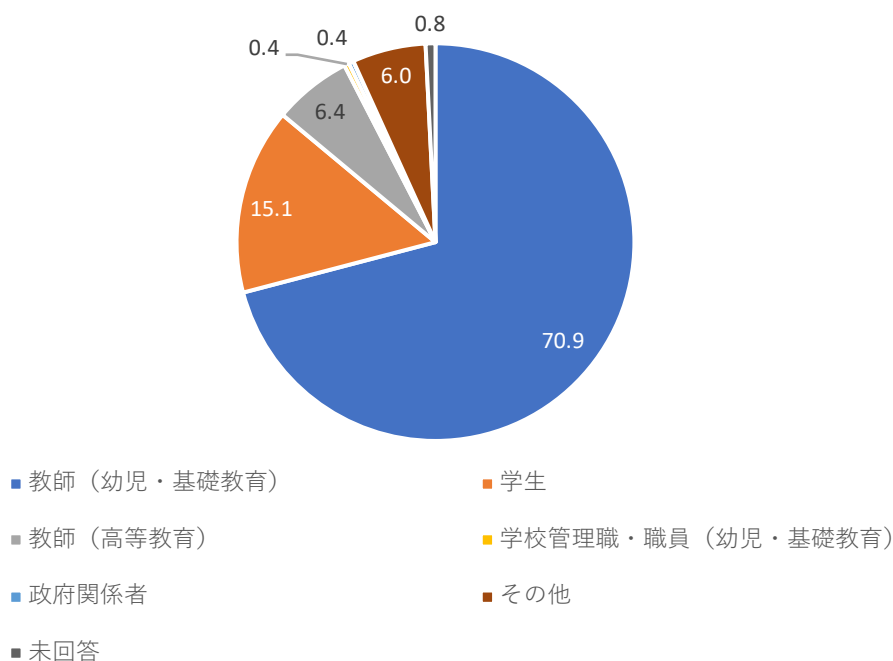


図 3 回答者の職業別割合（N=251）



1-4 プロジェクトとの関わり (表 4、図 4)

表 4 プロジェクトとの関わり (N=251)

	人数(人)	割合(%)
プロジェクトの研修/イベント/セミナーに参加した	242	96.4
プロジェクトの計画・運営に携わっている	3	1.2
研修・講義の講師	3	1.2
未回答	3	1.2
合計	251	100.0

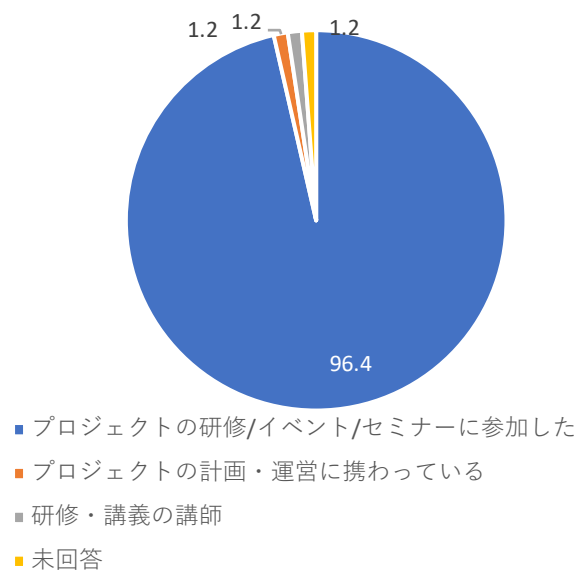


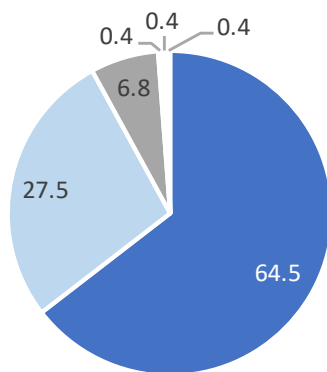
図 4 プロジェクトとの関わり (N=251)

## 2 プロジェクトを通じた変化や意見

### 2-1 ニーズとの整合性 (表 5、図 5)

**表 5 プロジェクト活動 (以下、活動と示す) はあなたのニーズに合っていますか? / 合っていましたか? に対する回答 (N=251)**

	人数(人)	割合 (%)
とてもあっている/いた	162	64.5
あっている/いた	69	27.5
どちらでもない	17	6.8
やや合っていない/いなかった	1	0.4
合っていない/合っていない	1	0.4
未回答	1	0.4
合計	251	100.0



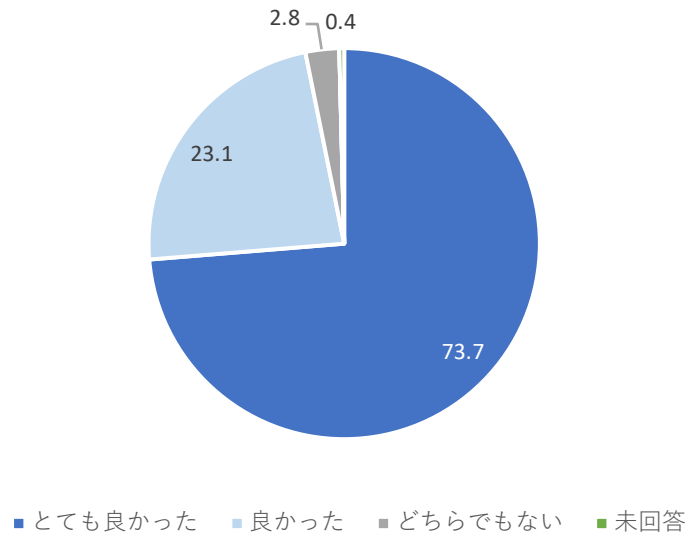
- とてもあっている/いた
- あっている/いた
- どちらでもない
- やや合っていない/いなかった
- 合っていない/合っていない
- 未回答

**図 5 活動はあなたのニーズに合っていますか? / 合っていましたか? に対する回答 (N=251)**

2-2 プロジェクトへの満足度（表 6、図 6）

**表 6 活動に参加して良かったですか？に対する回答（N=251）**

	人数(人)	割合(%)
とても良かった	185	73.7
良かった	58	23.1
どちらでもない	7	2.8
あまり良くない	0	-
良くない	0	-
未回答	1	0.4
合計	251	100.0



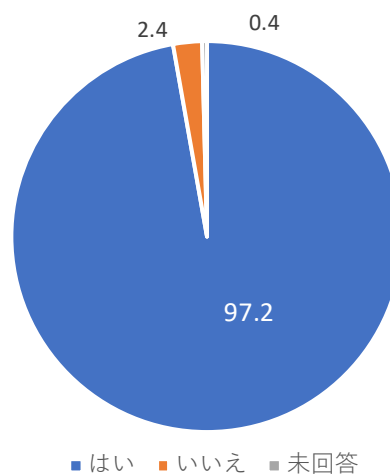
**図 6 活動に参加して良かったですか？に対する回答（N=251）**

2-3 活動を通じた新しい発見や学び

(1) 活動を通じた発見や学びの有無 (表 7、図 7)

**表 7 何か新しい発見や学びがありましたか？に対する回答 (N=251)**

	人数(人)	割合(%)
はい	244	97.2
いいえ	6	2.4
未回答	1	0.4
合計	251	100.0



**図 7 何か新しい発見や学びがありましたか？に対する回答 (N=251)**

(2) 発見や学びの具体的内容 (表 8、図 8)

「(発見や学びが) あった」と答えた人に対して、どのような発見や学びがあったか(複数回答可)を尋ねた。その他の回答として、「教員間での観察」、「ピア観察」、「体育のゲームへの活動力」、「教室内での体育」、「学習到達のための記録」が挙げられた。

**表 8 どんな発見や学びがありましたか？に対する回答 (複数回答可) (N=244)**

	人数(人)
教授方法	207
専門分野の知識	158
教育評価方法	40
日本の習慣・文化・価値観	31
自分の所属組織以外の機関とのネットワーキング	26
自分の専門分野以外の知識	15
日本のビジネスマナー	7
日本語	6
その他	5
合計	495

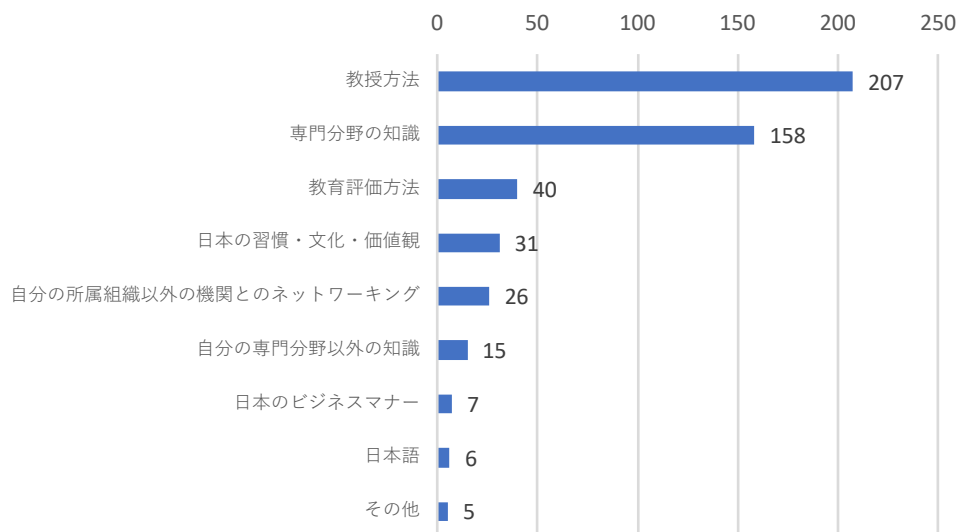


図 8 どんな発見や学びがありましたか？に対する回答（複数回答可）（N=244）

#### 2-4 活動を通じた回答者自身の変化

(1) 活動を通じた回答者自身の変化の有無（表 9、図 9）

表 9 活動を通してあなたに変化がありましたか？に対する回答（N=251）

	人数(人)	割合(%)
はい	244	97.2
いいえ	6	2.4
未回答	1	0.4
合計	251	100.0

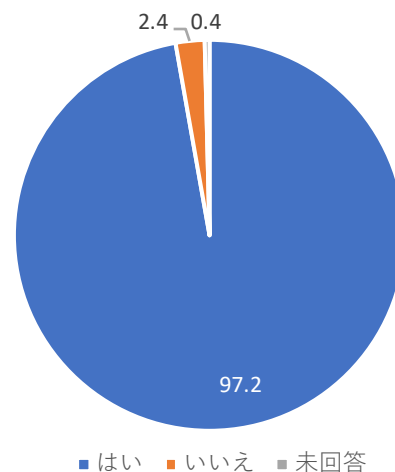


図 9 活動を通してあなたに変化がありましたか？に対する回答（N=251）

(2) 活動を通じた回答者自身の変化の内容（表 10、図 10）

活動を通じて回答者自身に変化があったと答えた人に対し、どのような変化があったか（複数回答可）を尋ねた。「上記以外で変化が見られた」と回答した者からは下記のような回答が得られた。

- 自分自身の仕事（に対する態度）がよくなった。
- 新しい教育を知ることができた。
- やる気がでた。
- より科学的な研究を行うようになった。

表 10 活動を通してどんな変化がありましたか？に対する回答（複数回答可）（N=244）

	人数(人)
自分の仕事/勉強/活動への関心が高まった。	216
日本や自分の国以外のことに興味を持つようになった。	168
自分の仕事/勉強/活動に積極的に参加するようになった。	37
成績が上がった。能力が向上した。	14
上記以外で、変化が見られた。	10
合計	445

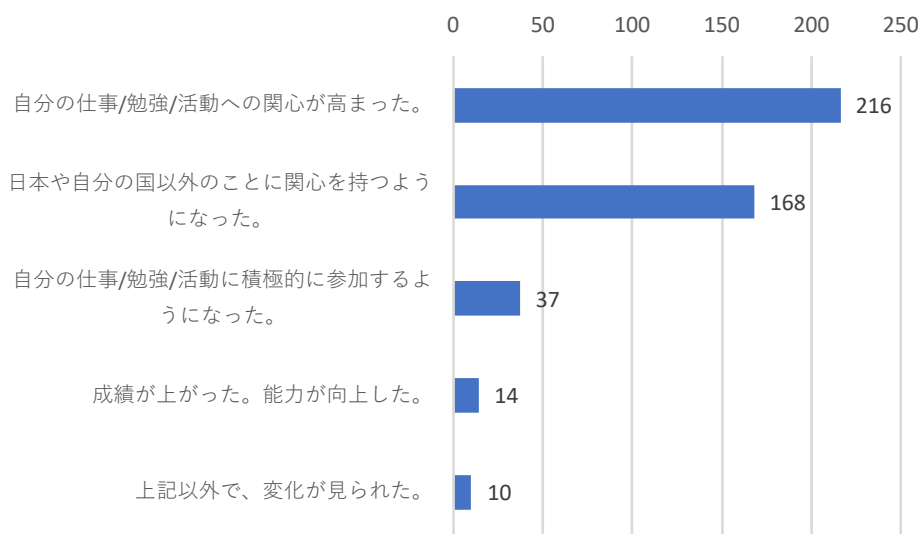


図 10 活動を通してどんな変化がありましたか？に対する回答（N=244）

## 2-5 活動を通じた研修受講者の変化

### (1) 活動を通じた研修受講者の変化の有無（表 11）

基礎情報でのプロジェクトとの関わり（1-4）に対する回答のうち、「研修・講義の講師」（3人）及び「計画・運営に携わっている」（3人）と回答した人に対し、「活動を通して研修受講者・参加者に変化がありましたか？」と尋ねた。

表 11 活動を通して研修受講者に変化がありましたか？に対する回答（N=6）

	人数(人)
はい	5
いいえ	0
未回答	1
合計	6

(2) 研修受講者の変化の具体的な内容 (表 12)

活動を通じた研修等参加者に変化が「あった」と答えた人に対し、どのような変化があったか(複数回答可)を尋ねた。

**表 12 活動を通して研修受講者にどんな変化がありましたか?に対する回答(複数回答可)(N=6)**

	人数(人)
研修受講者の仕事/勉強/活動への関心が高まった。	3
成績が上がった。能力が向上した。	3
日本や自分の国以外のことに関心を持つようになった。	1
研修受講者が仕事/勉強/活動に積極的に参加するようになった。	0
上記以外で、変化が見られた。	0
合計	7

2-6 プロジェクトの継続性 (表 13)

(1) プロジェクトの継続についての意思

基礎情報でのプロジェクトとの関わり(1-4)に対する回答のうち、「研修・講義の講師」及び「計画・運営に携わっている」と回答した人に対し、活動を継続していきたいかを尋ねた。

**表 13 活動を継続していきたいですか?に対する回答(N=6)**

	人数(人)
全くそう思う	3
そう思う	3
どちらでもない	0
そう思わない	0
全くそう思わない	0
未回答	0
合計	6

(2) プロジェクトの継続について (表 14)

基礎情報でのプロジェクトとの関わり(1-4)に対する回答のうち、「研修・講義の講師」及び「計画・運営に携わっている」と回答した人に対し、「活動を自分たちで継続できますか?」と尋ねた。

表 14 活動を自分たちで継続できますか？に対する回答 (N=6)

	人数(人)
全て継続できる	1
一部継続できる	5
できない	0
わからない	0
未回答	0
合計	6

### 3 日本の教育および日本に対する印象・興味関心

#### 3-1 日本・日本人に対する印象 (表 15、図 11)

表 15 活動を通して日本・日本人に対しての印象は良くなりましたか？に対する回答 (N=251)

	人数(人)	割合(%)
はい	247	98.4
いいえ	2	0.8
未回答	2	0.8
合計	251	100.0

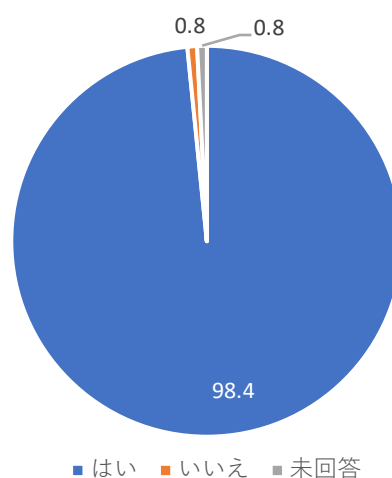


図 11 活動を通して日本・日本人に対しての印象は良くなりましたか？に対する回答 (N=251)

「はい」と答えた人に対して、「日本・日本人の印象」(複数回答可)について尋ねた(表 16、図 12)。また、「その他」を選択した者の回答は以下の通りである。

- 規律正しく仕事に対してまじめな人々である
- 明るい



表 16 日本・日本人の印象（複数回答可）（N=247）

	人数(人)
時間を守る	204
優しい	192
人間関係を大切にする	190
仕事のやり方が効率的	182
責任感がある	182
個々人を大切にする	180
創造的	178
新しいことに挑戦的	166
時間の管理がうまい	165
日本独自の文化や作法	164
信頼できる	137
礼儀正しい	104
仕事が丁寧	66
緻密／きめ細かい	51
誰でも平等に扱ってくれる	45
人材の指導や育成に長けている	43
きれい好き	37
明るい	34
アニメ・ファッションなどがある	26
節約上手	14
その他	5
合計	2,365

別添 1  
EDU-Port ニッポン

ペルーにおけるパイロット事業関係者に対するアンケート調査結果

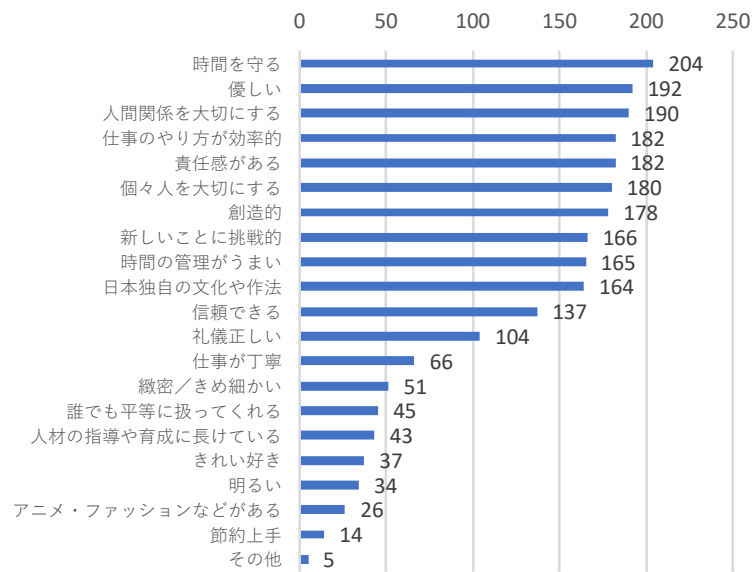


図 12 日本・日本人の印象（複数回答可）(N=247)

### 3-2 日本の教育の良い点

活動を通じて回答者が感じた日本の教育の特長（複数回答可）について尋ねた（表 17、図 13）。また、その他を選択した者の回答は以下の通りである。

- 多くの戦略を与えてくれた。

**表 17 日本の教育の良い点（複数回答可）(N=251)**

	人数(人)
教師間の連携が取れた教育	182
創造力が養われる	169
健康な身体づくり	164
問題解決の能力が身につく	162
自律性が育まれる	159
グループ活動が多い	147
地域と連携した教育	145
学びに向かう力が育まれる	144
時間を守る意識が身につく	144
主体的な学び	143
基礎学力・技術を身につけることができる	143
教材・副教材の内容が充実している	142
教材・副教材が豊富	138
知識や人間性、心身の健康のバランスの取れた教育	135
高度な学力・技術を身につけることができる	134
判断力が育まれる	129
思いやり・協調性が育まれる	127
多様な指導法がある	123
対話的に学ぶ	92
Child-Centered の教育	51
課外活動/特別活動（掃除、給食、放課後活動）が豊富	46
教育における ICT 活用が進んでいる	11
その他	5
特にない	3
合計	2, 838

## ペルーにおけるパイロット事業関係者に対するアンケート調査結果

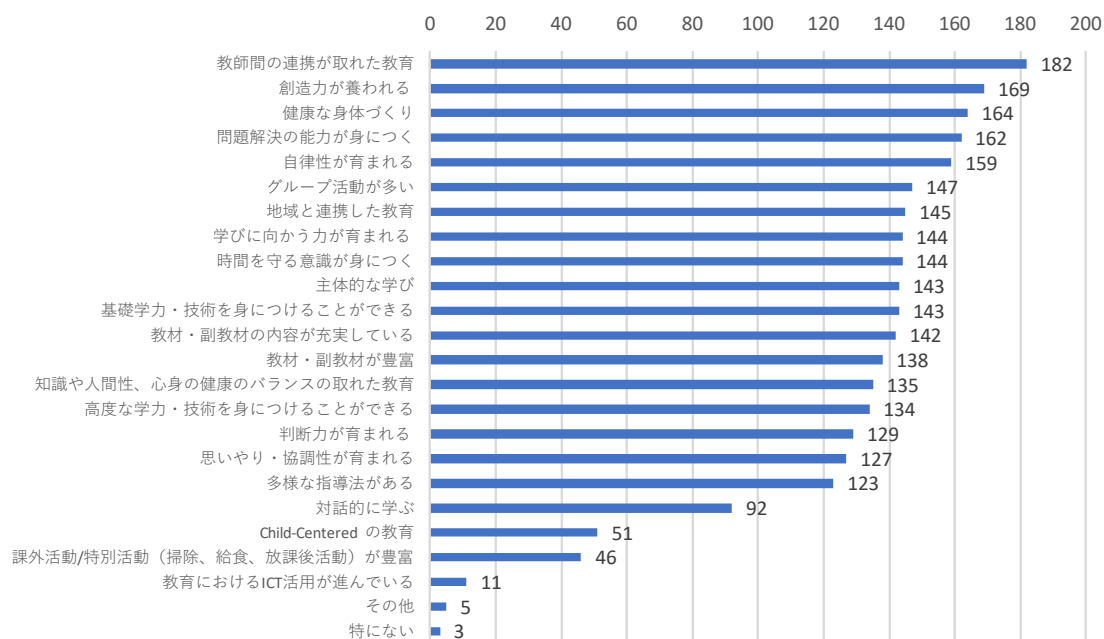


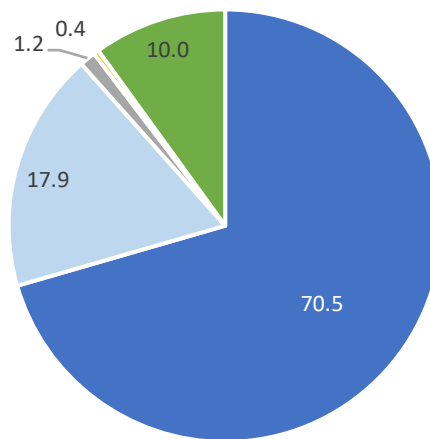
図 13 日本の教育の良い点（複数回答可）（N=251）

3-3 日本人と一緒にいきたい教育分野の活動

(1) 今後に日本人と一緒に教育分野の活動を行う意思 (表 18、図 14)

表 18 日本人と一緒に教育分野の活動をしたいですか？に対する回答 (N=251)

	人数(人)	割合(%)
全くそう思う	177	70.5
そう思う	45	17.9
どちらでもない	3	1.2
そう思わない	1	0.4
全くそう思わない	0	-
未回答	25	10.0
合計	251	100.0



■ 全くそう思う ■ そう思う ■ どちらでもない ■ そう思わない ■ 無回答

図 14 日本人と一緒に教育分野の活動をしたいですか？に対する回答 (N=251)

(2) 日本人と一緒にやりたい教育プロジェクトのアイデア

もし、(日本と) 具体的に協働できそうな教育プロジェクトのアイデアがあれば書いてください、と尋ねたところ、下記のアイデアが出された。

- 体育：授業の導入部分におけるダンスに関する助言について。健康な生活のための簡単な運動ゲーム。スポーツの教授法。
- 健康：健康的な食べ物。
- 高等教育：教育学を専攻する生徒の養成。
- 日本語：日本語教育。
- 評価：習熟度評価。形成的評価。
- 価値・倫理：価値観と倫理原則に基づいた教育。
- 調査：クラス調査の実施。
- 課外活動：学習サークル。
- その他：基礎能力の強化。

3-4 今後の日本との関わり方

今後、日本とどのように関わりたいかについて複数回答可で尋ねた（表 19、図 15）。その他を選択した者の回答は以下の通りである。

- 日本の修士課程に進みたい。
- ペルーにおける会議の実施。
- 互いの経験を共有し交流したい。
- 教育的投入や資源がほしい。
- スポーツ用具の支援を受けたい。

表 19 今後、日本とどのような関わり方を持ちたいですか？に対する回答（複数回答可）  
(N=251)

	人数(人)
自分の国で実施される日本のプロジェクトに参加したい	204
日本を視察したい	112
日本に留学したい	25
日本で働きたい	23
自分の国の日系企業／組織で働きたい	19
日本を観光したい	12
その他	8
特にない	2
合計	405

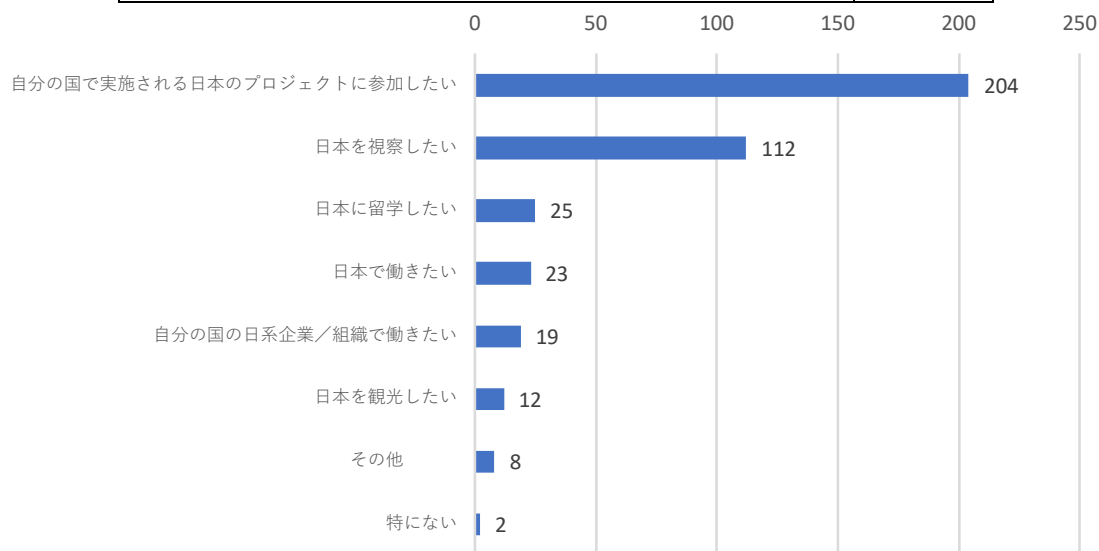


図 15 今後、日本とどのような関わり方を持ちたいですか？に対する回答  
(複数回答可) (N=251)

以上





2-4 プロジェクト活動を通してあなたに変化がありましたか？				
<input type="checkbox"/> はい		<input type="checkbox"/> いいえ		
「はい」と答えた人にお聞きします。プロジェクト活動を通してどんな変化がありましたか？(複数回答可)				
<input type="checkbox"/> 1 自分の仕事/勉強/活動への関心が高まった。		<input type="checkbox"/> 4 日本や自分の国以外のことに関心を持つようになった。		
<input type="checkbox"/> 2 自分の仕事/勉強/活動に積極的に参加するようになった。		<input type="checkbox"/> 5 上記以外で、変化が見られた。 (具体例: _____)		
<input type="checkbox"/> 3 成績が上がった。能力が向上した。				
1-4で“プロジェクトの研修/イベント/セミナーに参加した”と答えた方は3-1にお進みください。 “プロジェクトの計画・運営に携わっている”、“研修・講義の講師”と答えた方は2-5以下をご回答ください。				
2-5 プロジェクト活動を通して研修受講者に変化がありましたか？				
<input type="checkbox"/> はい		<input type="checkbox"/> いいえ		
「はい」と答えた人にお聞きします。プロジェクト活動を通して研修受講者にどんな変化がありましたか？(複数回答可)				
<input type="checkbox"/> 1 研修受講者の仕事/勉強/活動への関心が高まった。		<input type="checkbox"/> 4 日本や自分の国以外のことに関心を持つようになった。		
<input type="checkbox"/> 2 研修受講者が仕事/勉強/活動に積極的に参加するようになった。		<input type="checkbox"/> 5 上記以外で、変化が見られた。 (具体例: _____)		
<input type="checkbox"/> 3 成績が上がった。能力が向上した。				
2-6 プロジェクト活動を継続していきたいですか？				
<input type="checkbox"/> 全くそう思う	<input type="checkbox"/> そう思う	<input type="checkbox"/> どちらでもない	<input type="checkbox"/> そう思わない	<input type="checkbox"/> 全くそう思わない
2-7 プロジェクト活動を自分たちで継続できますか？				
<input type="checkbox"/> 全て継続できる	<input type="checkbox"/> 一部継続できる	<input type="checkbox"/> できない	<input type="checkbox"/> わからない	

### 3. 日本・日本人とのかかわりについて

3-1 プロジェクト活動を通して日本・日本人に対しての印象は良くなりましたか？				
<input type="checkbox"/> はい		<input type="checkbox"/> いいえ		
「はい」と答えた人にお聞きします。日本・日本人の印象に印を付けてください。(複数回答可)				
<input type="checkbox"/> 1 緻密/きめ細かい		<input type="checkbox"/> 11 優しい		
<input type="checkbox"/> 2 礼儀正しい		<input type="checkbox"/> 12 節約上手		
<input type="checkbox"/> 3 信頼できる		<input type="checkbox"/> 13 誰でも平等に扱ってくれる		
<input type="checkbox"/> 4 仕事が丁寧		<input type="checkbox"/> 14 きれい好き		
<input type="checkbox"/> 5 時間を守る		<input type="checkbox"/> 15 明るい		
<input type="checkbox"/> 6 仕事のやり方が効率的		<input type="checkbox"/> 16 責任感がある		
<input type="checkbox"/> 7 時間の管理がうまい		<input type="checkbox"/> 17 人間関係を大切にする		
<input type="checkbox"/> 8 人材の指導や育成に長けている		<input type="checkbox"/> 18 個々人を大切にする		
<input type="checkbox"/> 9 創造的		<input type="checkbox"/> 19 アニメ・ファッションなどがある		
<input type="checkbox"/> 10 新しいことに挑戦的		<input type="checkbox"/> 20 日本独自の文化や作法		
<input type="checkbox"/> 21 その他 ( _____ )				

3-2 プロジェクト活動を通じてあなたが感じた日本の教育の良い点は何ですか？(複数回答可)				
<input type="checkbox"/> 1 基礎学力・技術を身につけることができる	<input type="checkbox"/> 13 地域と連携した教育	<input type="checkbox"/> 14 教師間の連携が取れた教育	<input type="checkbox"/> 15 グループ活動が多い	<input type="checkbox"/> 16 Child-Centered の教育
<input type="checkbox"/> 2 高度な学力・技術を身につけることができる	<input type="checkbox"/> 17 時間を守る意識が身につく	<input type="checkbox"/> 18 多様な指導法がある	<input type="checkbox"/> 19 教材・副教材の内容が充実している	<input type="checkbox"/> 20 教材・副教材が豊富
<input type="checkbox"/> 3 学びに向かう力が育まれる	<input type="checkbox"/> 21 課外活動/特別活動(掃除、給食、放課後活動)が豊富	<input type="checkbox"/> 22 教育における ICT 活用が進んでいる	<input type="checkbox"/> 23 特にない	<input type="checkbox"/> 24 その他
<input type="checkbox"/> 4 判断力が育まれる				
<input type="checkbox"/> 5 問題解決の能力が身につく				
<input type="checkbox"/> 6 自律性が育まれる				
<input type="checkbox"/> 7 創造力が養われる				
<input type="checkbox"/> 8 思いやり・協調性が育まれる				
<input type="checkbox"/> 9 健康な身体づくり				
<input type="checkbox"/> 10 知識や人間性、心身の健康のバランスの取れた教育				
<input type="checkbox"/> 11 主体的な学び				
<input type="checkbox"/> 12 対話的に学ぶ				
	(			)
3-3 今後、日本人と一緒に <u>教育分野の活動</u> をしたいですか？				
<input type="checkbox"/> 全くそう思う	<input type="checkbox"/> そう思う	<input type="checkbox"/> どちらでもない	<input type="checkbox"/> そう思わない	<input type="checkbox"/> 全くそう思わない
3-4 もし、具体的に協働できそうな <u>教育プロジェクト</u> のアイデアがあれば書いてください。				
(				
)				
3-5 今後、日本とどのような関わり方を持ちたいですか？(複数回答可)				
<input type="checkbox"/> 1 日本で働きたい	<input type="checkbox"/> 5 自分の国の日系企業/組織で働きたい	<input type="checkbox"/> 6 自分の国で実施される日本のプロジェクトに参加したい	<input type="checkbox"/> 7 特にない	<input type="checkbox"/> 8 その他(
<input type="checkbox"/> 2 日本に留学したい				)
<input type="checkbox"/> 3 日本を視察したい				
<input type="checkbox"/> 4 日本を観光したい				

質問は以上です。ありがとうございました。

EDU-Port ニッポン事務局

Email: ml-eduport@k-rc.co.jp